

教師ノート

日付	2013年6月2日
単元	ペンテコステ
テーマ	聖霊を受けなさい
タイトル	聖い霊
テキスト	使徒4:32-5:11
参照箇所	使徒11:24、ヨハネ16:8、Iヨハネ1:9
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	Iヨハネ1:9
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	少下1巻③10課 、 少上3巻①3課
□導入	<p>言えそうで、心から素直になって言えない言葉って何だろう？ その1つが「ごめんなさい」だと思います。どうして「ごめんなさい」って素直に言えないんだろう？(考える時間を持つ) 今日素直に「ごめんなさい」と言えなかった人のお話が出てきます。</p>
□ポイント1 教会は、聖霊に満たされていました(使徒4:31-37)	<p>聖霊に満たされて誕生した教会(31)は、貧しくて困っている人はいませんでした。それはみんながお金持ちだからだったからではなく、心をつにしてお互いに助けあっていたからです。先々週に学んだ慰めの子のバルナバさんも、聖霊に満たされている人で(11:24)、神様の前に正直で助けあう心を持っている人でした。</p>
☞	<p>ここで聖書は「共産主義」や宗教的な「共同生活」を勧めているわけではありません。教会が誕生した初期という時代とその規模(顔が見える家族的な範囲)などの背景を知る必要があります。いわゆる初代教会の「原始共産的」なあり方も、永続したわけではありません。「無政府主義」や「マルクス主義的共産主義」は、この原理を国家全体に、また世界全体に拡大できると勘違いしたとある学者が指摘しているとおります。ここでの中心は、制度ではなく、お互いに助けあったということでしょう。</p>
□ポイント2 アナニヤとサツピラは、献金をごまかしました(5:1-11)	<p>お互いに支え合い、また神様の働きのためにささげる献金だったのですが、アナニヤとサツピラという夫婦はごまかした献金をもってきました。(どうやら周りの人から「すごいね」と言われたかったのかも知れませんが)しかしペテロは、ごますことは聖霊へのあざむき(裏切り)だと言いました。ペテロが語り終えると、アナニヤもサツピラもショックのあまり息が絶えてしまいました。</p>
☞	<p>「土地を売ってお金を全部、献金にささげなければならない」という印象を与えないようにしましょう。一部だったら一部と素直に言えば良かったことが伝わるように話しましょう。</p>
☞	<p>アナニヤとサツピラの死は、「単なるショック死ではない」(『新聖書注解』)と述べ、「神のさばき」であったという説が示されています。もちろん生と死は神の御手の中にあり、死は最終的には罪の結果です。しかしある学者は新約の時代だから「ショック死」だと表現しています。子どもたちに語ることを鑑みた時、伝えるべき点をしっかりと伝えているなら(聖霊をあざむく罪の大きさ)、「ショック死」と語っても良いと思います。</p>
☞	<p>このことは、教会に非常な恐れが生じる出来事でした(5、11)。しかしこのことで、人々は教会から遠ざかったのではなく、むしろ尊敬を受け(14)、主を信じる者が男女ともますます増えていきました。</p>

□ポイント3 聖霊は、聖い霊です（5:3-4、8-9）

ペテロはアナニヤとサツピラが代金をごまかしていることを、聖霊によって知ることができました。ペテロが何でも知っているというよりも、聖霊が人の心の中にあること（良いことも、そうでないことも）を全部知っておられます。サツピラは、ペテロが「この値段で土地を売ったのですか？」と聞いた時に、素直に罪を認めて悔い改めることができたなら良かったのですが、「はい、その値段です」と言いました。聖霊は、聖い霊なので、いつわること、ごまかすこと、だますこと、罪を隠すことを嫌います。ただ嫌うだけではなく、罪を指摘して悔い改める機会を与えます。

□結論 聖霊は、私たちの罪を示し、悔い改めに導く聖い霊です。

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

罪は放っておくと、カビや癌細胞のように、どんどん増え広がっていきます。今、私たちの中に、隠している罪、ごまかしていること、嘘をついていることはないでしょうか。誰も知らなくても聖霊は知っています。イエス様は、その罪を責めてさばいて、みんなをひどい目にしようと思っているのではありません。みんなを愛しています。愛しているからこそ、汚いもの、ごまかしているもの、そういうものを持ったままでいてほしくないのです。イエス様はみんなを愛していますが、罪はお嫌いなんです。その罪をイエス様の十字架の血潮で聖くしたいと願っています。今、勇気を持って祈りの中で告白し、罪を悔い改めましょう。私たちが悪や罪から聖めてくれます。（Iヨハネ 1:9）

- * 子どもたちの様子を見ながら、個人的に悔い改めへと導いてあげてもよいでしょう。その時、イエス様の十字架によって赦されたことを最後に強調して励ましましょう。